

## ご使用前に必ずお読みいただきたいこと

### △注意

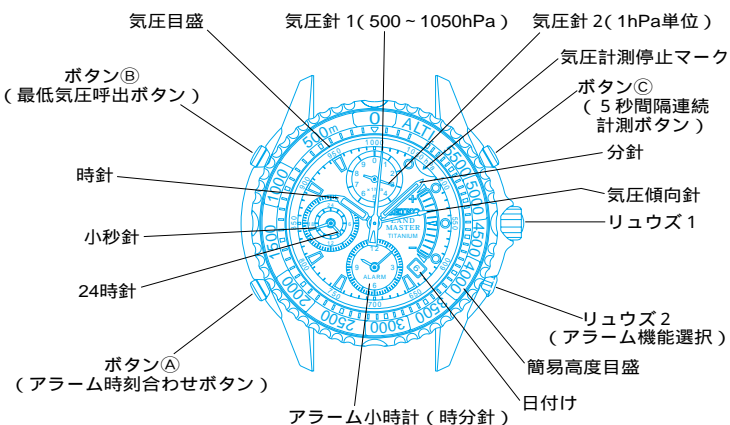
この時計の計測機能（気圧、高度、気圧傾向など）は、専門的な計器として使用できません。あくまでも目安としてご使用ください。急激な高度変化があるスポーツや、特に対地高度を必要とするスポーツには使用できません。ハンググライダー、スカイダイビング、パラグライダー、気球、グライダー等には使用しないでください。

## 製品の特長

- ・気圧センサー付きのアナログ多機能時計です。
- ・2つの気圧針により、500hPa～1050hPaの範囲で1hPa単位での表示が可能です。
- ・通常は10分間隔で気圧計測を行っていますが、5秒間隔での計測も可能です。
- ・最低気圧を自動的に記憶していますので、簡易的に最高高度のメモリーとしても使えます。
- ・気圧傾向針で短時間（約3時間）の気圧変化傾向を上下各5段階で表示します。
- ・アラーム機能は、デイリーアラームとワンタッチアラームの2種類の使い方ができます。
- ・時計単独修正機能と24時針を使うことによって、デュアルタイムを表示することができ、アラーム小時計にも時差修正機能があるので、海外旅行時に便利です。（ただし、1時間単位での時差地域に限る）
- ・電池寿命が終わりに近づきますと、小秒針が2秒間隔で動きを知らせてくれます。

1

## 各部の名称とはたらき



3

## 操作概略

- ・この時計の主な操作の概略です。詳しい操作については、各々の説明ページをご覧ください。
- 【合わせ操作】

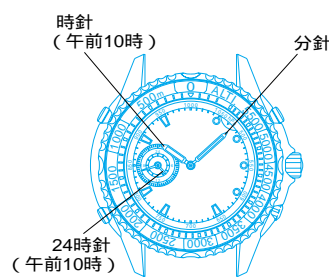
- ・リュウズ1を2段目まで引き出す
    - 時刻合わせ 24時針・分針（リュウズ1を回す）
    - 時針（リュウズ2を2段目で回す）
  - アラーム小時計合わせ 時分針（ボタン⑨を押す）
  - 気圧針0位置合わせ 気圧針1（ボタン⑧を押す）
  - 気圧針2（ボタン⑩を押す）
- リュウズ1を押し込む  
 ください。上記の操作をしてからリュウズ1を押し込んでください。
- ・リュウズ1を1段目まで引き出す
    - 日付合わせ（リュウズ1を左に回す）
  - リュウズ1を押し込む
- 【時差修正】
- ・リュウズ2を2段目まで引き出す
    - 時差修正（リュウズ2を回す）
    - アラーム小時計の時差修正（ボタン⑨を押す）
  - リュウズ2を押し込む
- 【アラーム】
- ・リュウズ2を1段目まで引き出す
    - デイリーアラームセット（ボタン⑨を押す）
    - ワンタッチアラームON
  - リュウズ1を押し込む
  - ・リュウズ2を押し出す
    - ワンタッチアラーム（ボタン②を押す）

2

## 時刻の合わせかた（基本時計・アラーム小時計の時刻・気圧針の0位置合わせ）

この時計では、24時針を2つの目的で使うことができます。使用目的により最初の時刻合わせの方法が異なりますので、目的に合わせた時刻合わせが必要です。また、3時リュウズを2段目に引き出すと、アラーム小時計の時刻合わせと気圧針の0位置合わせが一緒にできますので、合わせて行うことをおすすめします。

- 24時針を基本時計の24時針（午前午後が読める）として使用する。
  - ・普通の使いかたがこのタイプになります。
  - ・たとえば、日本時間に合わせると、海外旅行のときに旅先の時刻を時分針で表示しても、24時針で日本時間を見ることができ便利です。
- 24時針を他の地域の時刻を表示させて使用する。
  - ・住む場所とは異なる時間（時差のある時刻）に合わせておき、時分針とデュアルタイム表示として使用する場合にはこのタイプを選びます。
  - ・たとえば、24時針を世界標準時（GMT）に合わせ、基本時計を日本時間に合わせると、GMTをいつでも確認できることになります。



用途1の例

4

### 【24時針を基本時計の24時針として合わせる方法】

リュウズ1を2段目まで引き出します。

このとき小秒針が止まりますので、0秒のところまで止めてください。アラーム小時計はリュウズ1を2段目まで引き出した時の時刻を表示して止まります。2つの気圧針は、それぞれ1000hPaと0hPaの位置に自走し、気圧計測はしません。リュウズ2は0段目が1段目にしておいてください。

リュウズ1を右回転させ、24時針と分針を現在時刻に合わせます。午前午後に注意して合わせます。

時計の位置により日付が修正されますが、後で合わせられますのでご安心を！  
 合わせる時刻より4～5分進めてから逆に戻して合わせてください。

リュウズ1を押し込む前にアラーム小時計の時刻合わせと気圧針の0位置合わせをしてください。  
 【アラーム小時計の合わせかた】(P.9)を参照。  
 【気圧針の0位置合わせ】(P.10)を参照。



時報と同時にリュウズ1を押し込んでください。24時針、分針、小秒針の合わせができました。

このとき気圧針は現在気圧を表示します。アラーム小時計も小秒針の0秒に合った1分運針になります。

5

時計を現在時刻に合わせます。リュウズ2を2段目まで引き出してください。

このとき、アラーム小時計は現在時刻を表示します。ボタン⑩を押すとアラーム小時計が時差修正されますのでご注意ください。

リュウズ2を左回転させ、現在時刻に合わせます。

日付けが変わるところが午前0時ですので、午前午後を間違いなく合わせてください。時計は1時間単位の進み方を確認しながら合わせてください。

合わせ終わったら、リュウズ2を押し込んでください。

この使いかたでの時刻合わせができました。海外旅行などで時針を単独で時差修正したときは24時針がホームタイムとして機能を果たしますので、便利です。（【時差修正の使いかた】(P.13)を参照）

### 【24時針を他の地域の時刻に合わせる方法】

リュウズ1を2段目まで引き出します。

このとき小秒針が止まりますので、0秒のところまで止めてください。アラーム小時計はリュウズ1を2段目まで引き出した時の時刻を表示して止まります。2つの気圧針はそれぞれ1000hPaと0hPaの位置に自走し、気圧計測はしません。リュウズ2は0段目が1段目にしておいてください。

日付けが変わるところが午前0時ですので、午前午後を間違いなく合わせてください。時計は1時間単位の進み方を確認しながら合わせてください。

合わせ終わったら、リュウズ2を押し込んでください。

この使いかたでの時刻合わせができました。24時針に表示させる時刻を変える場合はこの操作の から合わせてください。世界各地の時差については【時差修正の使いかた】に時差の一覧表がありますので、ご参照ください。（【時差修正の使いかた】(P.13)を参照）

時刻の合わせをした場合、日付けの確認をしてください。必要によっては合わせ直しをしてください。（【日付けの合わせかた】(P.12)を参照）

6

## アラーム小時計の時刻の合わせかた

- ・リュウズ2が通常位置（0段目）または2段目にある時に、6時位置のアラーム小時計が表示している時刻が現在時刻と異なっている場合は正確な時刻でアラームが鳴りませんので、次の方法で現在時刻に合わせてください。

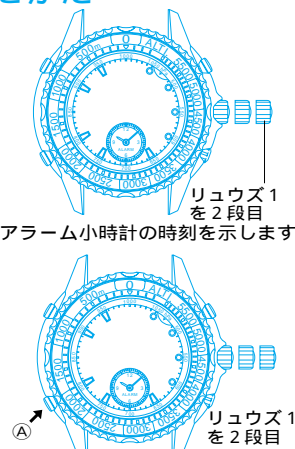
リュウズ1を2段目まで引き出します。

実際にはここで「時刻」の合わせが必要となりますので「時刻の合わせかた」の項目からお読みください。ここでは、アラーム小時計の時刻合わせの方法のみ説明します。

ボタン⑨を押してアラーム小時計を現在時刻に合わせます。ボタン⑨を押し続けると早く進みます。

アラーム小時計の時刻は進む方向のみ合わせます。行き過ぎてしまった場合はもう一度合わせ直してください。

次に気圧針の0位置確認・合わせをしてください。  
 【気圧針の0位置合わせ】(P.10)を参照。



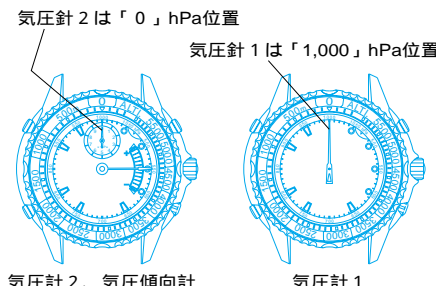
9

## 気圧針の0位置合わせ

- ・気圧針1（500hPa～1050hPa）と気圧針2（1hPa単位）の0位置がずれてしまった時は、この操作で直してください。

気圧針の0位置確認のしかた

- ・リュウズ1を1段目まで引き出し、ボタン⑧を2～3秒押し続けると、気圧関係の針（気圧針1・気圧針2・気圧傾向針）は0位置に進み、アラーム時分針の自走が始まります。その後、気圧針それぞれの自走が始まり最後は再び0位置に止まります。この時にそれぞれの気圧針が0位置を指しているかご確認ください。（リュウズ1を押し込むと元に戻ります）



気圧針2、気圧傾向針

気圧針1

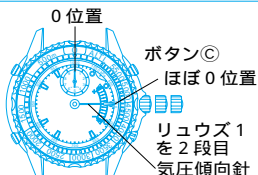
10

### 気圧針の0位置合わせ

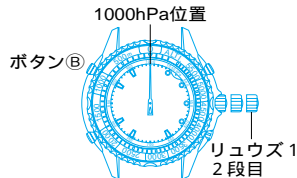
気圧針の0位置がずれた場合、0位置合わせをしてください。  
リュウズ1を2段目まで引き出してください。  
この時、時計が止まり、アラーム小時計がリュウズ1を2段目まで引き出した時の時刻を表示して止まります。

実際にはここで「時刻」と「アラーム小時計の時刻」合わせが必要となりますので「時刻の合わせかた」の項目からお読みください。ここでは気圧針の0位置合わせの方法のみ説明します。

ボタンBとボタンCを使って、2つの気圧針を0位置に合わせます。  
【気圧針2（1hPa単位）の0位置合わせ】  
気圧針2は気圧傾向針と連動しています。  
ボタンCを押して気圧傾向針をほぼ0位置に気圧針2は0hPa位置に合わせてください。  
気圧針2は1/3hPa単位で動きます。  
2本の針は連動していますので気圧傾向針はほぼ0位置に合わせていれば大丈夫です。気圧傾向針を0位置を超えて+1方向へ合わせようとする、異常な修正と感知し、気圧針2と気圧傾向針が自走し修正前の位置に戻ります。再度、合わせ直してください。



【気圧針1の0位置合わせ】  
ボタンBを押して気圧針1を1,000hPa位置に合わせてください。  
気圧針1は2hPa単位で動きます。  
押し続けると早く進みます。



次に「時刻の合わせかた」のそれぞれの方法の（P.5またはP.7）に戻り、続きの操作をしてください。

## 時差修正の使いかた（1時間単位の時差）

- 海外旅行など、時差のある地域へ移動した場合、時計を止めることなく現地の時刻に修正することができます。
- アラーム小時計の時差修正も可能です。（「アラーム小時計の時差修正のしかた」を参照）

### 【時差の求めかた】

- 時差修正の前に、修正する「時差」を正確に知っておくことが重要です。
- 単に時計の表示を現地の時刻に合わせるだけでは、午前午後や日付けが連動して修正されないことがありますので、正しい時差を求める必要があります。

### 計算方法

A地域にいる人がB地域へ移動した場合、それぞれの地域のGMTからの時差を使い計算します。

- A地域のGMTからの時差を[a]、B地域のGMTからの時差を[b]とした場合、修正するべき時差は、  
[b] - [a] で求められます。

《例》日本からアメリカのニューヨークへ移動した場合、  
A地域日本（東京）のGMTからの時差 [a] = (+ 9)  
B地域ニューヨークの " " [b] = (- 5)  
求める時差 = [b] - [a] = (- 5) - (+ 9) = (- 14)時間

サマータイムを使う地域では、GMTからの時差の数値に「+1」時間して計算します。

## 都市と時差の比較表

GMTは、グリニッチ標準時を示しています。+はGMTより進み、-は遅れを示しています。

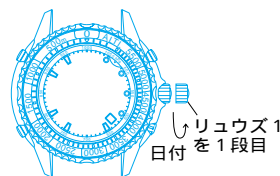
GMT	GMTとの時差	都市名	サマータイム有	その他の都市（印はサマータイム有）
LON	0	LONDON	ロンドン	カサブランカ、ダカール
PAR	+1	PARIS	パリ	アムステルダム、フランクフルト
ROM	+1	ROME	ローマ	ベルリン
CAI	+2	CAIRO	カイロ	アテネ、イスタンブール、キエフ、ケープタウン、トリポリ
MOW	+3	MOSCOW	モスクワ	メッカ、ナイロビ
DXB	+4	DUBAI	ドバイ	タシケント
KHI	+5	KARACHI	カラチ	
DAC	+6	DACCA	ダッカ	
BKK	+7	BANGKOK	バンコック	ブノンペン、ジャカルタ
HKG	+8	HONG KONG	ホンコン	マニラ、北京、シンガポール
TYO	+9	TOKYO	東京	ソウル、平壤
SYD	+10	SYDNEY	シドニー	グアム島、ハバロフスク
NOU	+11	NOUMEA	ヌメア(ニューカレドニア)	ソロモン諸島
WLG	+12	WELLINGTON	ウェリントン	フィジー諸島、オークランド
MDY	-11	MIDWAY	ミッドウェイ	
HNL	-10	HONOLULU	ホノルル	
ANC	-9	ANCHORAGE	アンカレッジ	
LAX	-8	LOS ANGELES	ロサンゼルス	サンフランシスコ、バンクーバー、ドーン(カナダ)
DEN	-7	DENVER	デンバー	エドモントン(カナダ)
CHI	-6	CHICAGO	シカゴ	メキシコシティ
NYC	-5	NEW YORK	ニューヨーク	ワシントンDC、モントリオール
CCS	-4	CARACAS	カラカス	サンチャゴ(チリ)
RIO	-3	RIO DE JANEIRO	リオデジャネイロ	アビスアイレス

サマータイムの各都市における採用は、年毎に変わる可能性がありますのでご注意ください。  
この表は1992年8月時点の採用状況に基づいて作成してあります。

## 日付けの合わせかた

- 時刻合わせが済みしたら、日付けを合わせてください。
- 小の月（1ヶ月の日数が30日の月）や2月の月末の日付けの修正も、この方法で行ってください。

リュウズ1を1段目に引き出します。  
リュウズ1を左に回して日付けを合わせてください。  
時計が午後9時から午前1時の間にある場合は、修正ができなったり時計が動いてしまうことがありますので、時計をそれ以外の時間帯に動かしてから日付けの合わせをしてください。（「時差修正の使いかた」を参照）  
リュウズを回すときは、ゆっくりと回してください。  
合わせが終わったらリュウズ1を押し込んでください。  
操作において、時計の時差修正をした場合はもとの時刻に合わせ直してください。



### 時差修正のしかた

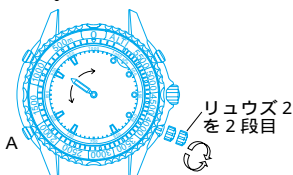
「時差の求めかた」で計算した値などで時差修正します。  
リュウズ2を2段目まで引き出してください。

警告音が「ビビッ」となりアラーム小時計がリュウズ2を2段目まで引き出した時の時刻を表示して止まります。

リュウズ1は必ず通常位置に押し込んでおいてください。

リュウズ2を回転して時差修正をします。

1時間単位の進み方を確認しながら回してください。



右回転すると：マイナス時差修正  
左回転すると：プラス時差修正

時差修正をするときは、午前・午後および日付け等にご注意ください。  
アラーム小時計の時差修正がボタンAを押すことで可能です。  
（「アラーム小時計の時差修正のしかた」を参照）  
修正の際、分針や気圧針などが少し動きませんが機能には差し支えありません。  
右回転でマイナス時差修正をしてAM 0:00を通過してPM 9:00～AM 0:00付近に合わせる場合は一旦PM 8:00まで戻し合わせてください。

修正が済みしたらリュウズ2を押し込んでください。

## アラームの使いかた（12時間制で1分単位のアラームセット）

- この時計のアラームにはワンタッチアラームとデイリーアラームの2種類の機能があります。
- アラーム小時計の時差修正もできます。

### ワンタッチアラーム

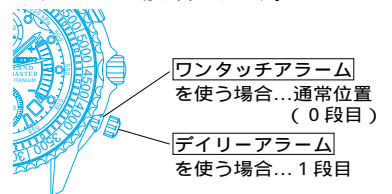
1回アラーム時刻をセットし、1回鳴らすとアラームが解除されるアラーム機能です。アラーム小時計が現在時刻を表示している状態でアラーム時刻をセットしますので、たとえば、15分後の会議時刻をセットするときなどに便利です。

### デイリーアラーム

1回アラーム時刻をセットすると、毎回その時刻に鳴らすことができるアラーム機能です。たとえば、毎朝の起床時刻をセットしておき、リュウズ2を1段目に引き出して、アラームを鳴らすことができます。（ただし、12時間制ですので1日2回鳴ることになります。）

ワンタッチアラームとデイリーアラームとでは、アラーム時刻に鳴る音が異なります。

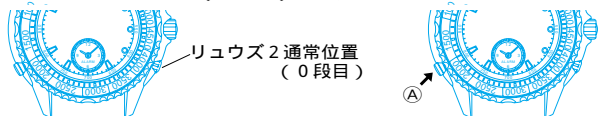
2つのアラーム機能はリュウズ2を操作することで切り替わります。



【ご注意】この2つのアラームは同時に使用することはできません。リュウズ2の位置で決まりますので、ご注意ください。

### ワンタッチアラームの使いかた

- リュウズ2を通常位置（0段目）にし、ボタンAを押すだけで操作できます。



リュウズ2を通常位置（0段目）にしてください。アラーム小時計は現在時刻を示します。

ボタンAを押すとアラーム小時計の針が1分ずつ進みます。セットしたい時刻に合わせてください。ボタンAを押し続けると早く進みます。これでセットは完了です。

セットした時刻になるとアラーム音が約20秒間鳴ります。アラーム小時計はその後現在時刻を示す通常の運針に戻ります。鳴っているアラーム音を止めるには、ボタンA/B/Cのいずれかを押ししてください。

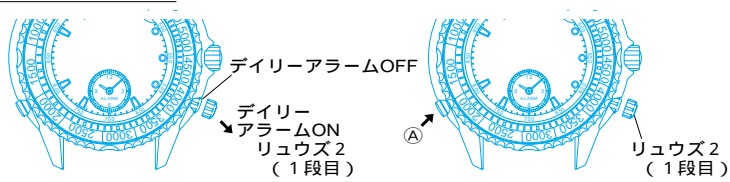
ワンタッチアラーム時刻を合わせるためボタンAを押し続け、ちょうど12時間後の時刻つまり現時刻と一致すると、針が進まなくなります。この時、ワンタッチアラームはセットされません。一旦ボタンAをはなし、もう一度合わせ直してください。  
12時間以上あとのアラーム時刻をセットすることはできません。

### ワンタッチアラーム時刻の再セットと解除について

- 合わせてあるアラーム時刻はボタンAで再セットが可能です。（ただし、進ませる方向のみ）
- 解除したい場合は、ボタンAを押し続けて現在時刻に合わせてしまう方法と、リュウズ2を1段目に引きだしもう一度押し込む方法があります。

### デイリーアラームの使いかた

- リュウズ2を1段目にして、ボタンAを押して合わせます。



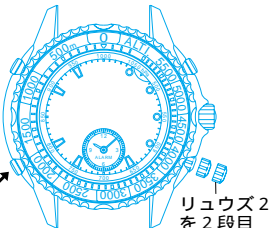
リュウズ2を1段目に引き出して、アラーム小時計は以前セットしたデイリーアラーム時刻を示します。アラームセット時刻を変えない場合はこれでセット完了です。現在時刻がアラームセット時刻になるとアラーム音が約20秒間鳴ります。鳴っているアラーム音を止める場合はボタンA/B/Cのいずれかを押ししてください。

アラームセット時刻を合わせ直す場合はリュウズ2を1段目の状態でボタンAを押して合わせてください。ボタンAを押すと1分ずつアラームセット時刻が進みます。押し続けると早く進みます。これでセットは完了です。

デイリーアラームを使用しない場合は、リュウズ2を通常位置（0段目）に押し込んでおくことをお勧めします。  
あらかじめセットしたアラーム時刻は、リュウズ2を1段目に引き出すことで毎回ご利用いただけます。

### アラーム小時計の時差修正のしかた

- アラーム小時計も基本時計と同じように、時計を止めてアラーム針を単独で修正することができるので、海外旅行時に便利です。  
リュウズ2を2段目まで引き出してください。



警告音が「ビビッ」となりアラーム小時計がリュウズ2を2段目まで引き出した時の時刻を表示して止まります。  
リュウズ1は必ず通常位置に押し込んでおいてください。

ボタンAを押すとアラーム小時計の時針が「+1時間」進みます。押し続けると1時間単位でアラーム小時計の時針が進みます。

アラーム小時計の時差修正は進み方向（時計回り）のみ可能です。この時差修正は進み方向のみ可能で、しかもアラーム小時計は12時間制ですので、基本時計の時差修正の値とは異なる時差修正にもなります。

### 《例》

基本時計の時差修正	→	アラーム小時計の時差修正
+ 4	→	+ 4
+ 1 4	→	+ 2
- 6	→	+ 6

修正が済みしたらリュウズ2を押し込んでください。

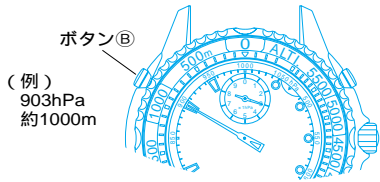
【ご注意】デイリーアラームは以前セットした時刻がそのまま残りますので、以前セットしたのが「7:00」であれば時差修正した新しいアラーム小時計の時刻の「7:00」にアラームが鳴ります。また、必要があればデイリーアラームのセット時刻を変えてください。



## 気圧計の使いかた

- この時計には気圧を感知するセンサーが内蔵されています。
  - 2本の針を使い1hPa単位で500hPa～1050hPaの表示が可能です。
  - 通常は10分間隔で気圧を計測しています。
  - 現在の気圧を知りたい場合は、連続計測機能を使って知ることができます。
  - 計測した最低気圧値が自動的にメモリーされていますので、呼び出して見ることができます。
  - 気圧値から簡易高度を求めることができます。
- 気圧値の読みかた
- 気圧針1で10hPa単位の気圧値を読み取ります。(実際は2hPa単位で動きます)
- 12時位置の気圧針2で1hPa単位の気圧値を読み取ります。
- 【例1】1013hPaの場合  
【例2】949hPaの場合
- 気圧針1 = ちょうど950hPaに読み取れるが、940hPa台と読んでください。
- 気圧針2が9hPaなどのように大きな値になると、気圧針1が次の目盛りに近づいてしまいますので、ここで「959hPa」とは読まないようにご注意ください。
- また、それとは逆に950hPaのように気圧針2が0hPaを示す場合、気圧針1が目盛りを越え、940hPa側に見えてしまうことがあります。ここでも「940hPa」と読み取らないようご注意ください。

21



最低気圧値からその外側の簡易高度目盛りを読むと簡易的に最高高度が分かります。(「高度の求めかた」を参照)

最低気圧のメモリーとして約700hPa程度のデータが記録されている場合があります。これは工場出荷時のテスト結果ですので、ご使用前に消去してください。(「最低気圧値の消去のしかた」を参照)

連続計測中にボタン⑧を押すと、連続計測を中止し最低気圧値を示します。連続計測を続けたい場合は、もう一度ボタン⑨を押してください。

約1分間最低気圧値を示し、その後自動的に現在の気圧値を示します。

最低気圧値を表示中にもう一度ボタン⑧を押すと、最低気圧値の表示をやめ、現在の気圧値を示します。同じくボタン⑨を押した場合は、最低気圧値の表示をやめ、5秒間隔の連続計測を始めます。

23

## 回転ベゼルの使いかた

- 一般的には気圧値からの目安として高度を算出することができます。
  - 回転ベゼルの上に高度目盛りがありますので、その日の気圧配置に合わせた高度補正ができます。
- 【注意】
- 回転ベゼルは携帯中に回ってしまうことがありますので、高度を読み取る際はその位置をよくご確認ください。
  - その日の気圧配置に合わせて、高度補正をしてお使いください。この高度補正は毎日あるいは必要に応じて行ってください。(「高度補正のしかた」を参照)
  - この方法で求められる高度はあくまでも目安としてお使いください。

簡易高度の読み取りかた  
回転ベゼルの「0」位置を、気圧目盛の「1013hPa」に合わせます。

気圧針1が示す回転ベゼル上の数値が簡易高度として読み取れます。

高度補正のしかた  
その日の気圧配置の関係から、同じ場所においても気圧値が変化するので、高度目盛の回転ベゼルの回して補正することができます。

気圧配置は毎日変わりますので、必要に応じて高度補正をしてください。

高度(標高)が分かる場所で、その場所の高度目盛を、気圧針1が示す位置に、回転ベゼルの回して合わせます。(例)標高500mで、気圧針1が950hPaを示している場合

25

## 気圧調整について

- 気圧値の調整が必要な場合、ボタン操作で1hPa単位で調整が可能です。
  - 気圧計として信頼できる他の計測器がある場所以外では、気圧調整を絶対に行わないでください。
- 【調整のしかた】
- リュウズ1を1段目に引き出します。
- ボタン⑧とボタン⑨を同時に2秒以上押し続けると確認音「ピー」がします。
- ボタン⑧か⑨を押して1hPa単位で合わせます。終わったらリュウズを押し込みます。

合わせ中にボタン⑧と⑨を同時に押すと調整値がキャンセルされます。この調整は、電池交換時にキャンセルされます。

27

## 【注意】

- この傾向表示は、あくまでも気圧変化の傾向を示すものであり、天候の変化をすべて予測できるものではありません。
- 特に、夏期の夕立(雷雨)や冬期の日本海側を中心とした雪など、気圧変化傾向には、表れない場合や、逆の傾向表示になることがあります。
- 天気予測に活用するためには、今の天気や新聞等の天気予報を参考に「いつ天気がくずれる」、また「いつ天気が好転する」のかを気圧傾向針から知ることもできます。
- 移動により高度(標高)が変わると気圧も変わります。この気圧変化は極力表示しないようになっていますが、連続して高度が変わった場合など本来の気圧変化と多少異なる場合があります。たとえば、高度が上がることが「LOW」を示したり、高度が下がるとその逆に「HIGH」を示すことがあります。
- 移動の影響で「HIGH」または「LOW」を示した場合、その後移動が終了し、その場所での気圧傾向を示すまでに約2時間は掛かりますのでご注意ください。
- 気圧傾向針は30分ごとに新しい計算値を示しますが、そのタイミングは10分の通常気圧計測の3回に1回となります。

29

- 気圧値を今、計測したい場合 5秒間隔計測5分間
- 通常は10分間隔で計測していますので、表示されている気圧値は最大で10分前の気圧値となります。
  - 今、現在の気圧値を計測したいときや、刻々と変わる気圧値を見たい場合などに使用します。
  - ボタン⑨を押すだけで、5秒間隔の計測を開始します。5分間連続計測します。
  - ボタン⑨を押すと、5秒間隔の連続計測がスタートします。

ボタン⑨が押されると、即気圧計測をし、計測結果を示してから確認音が「ピッ」となります。

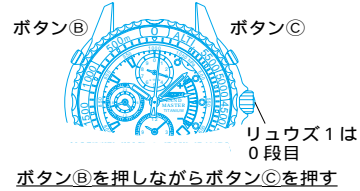
約5分後、通常の10分間隔計測に戻ります。

さらに連続計測が必要な場合は、もう一度ボタン⑨を押してください。ボタン⑨は何回押しでも最後に押されてから約5分間連続計測を行います。

## 【連続計測をやめたい場合】

- 連続計測中にボタン⑧を押し、最低気圧メモの呼び出しをした場合、ただちに連続計測を中止します。(詳しくは「最低気圧の呼び出しかた」を参照)
- 最低気圧の呼び出しかた 簡易最高高度の呼び出し
- 計測した最低気圧値を自動的にメモリーしていますので、いつでも呼び出して見ることができます。
- 洋上にいる場合は、遭遇した低気圧の最低気圧値の記録として使えます。
- 陸上では、山登りなどで簡易的に最高高度の記録としても使えます。
- 最低気圧値の記録は必要に応じて、消すことができます。
- 最低気圧値を呼び出ししたいときは、ボタン⑧を押してください。
- 気圧針(2本)が自走し、メモリーされている最低気圧値を示し、確認音(ピビッ)がします。

22



## 最低気圧値の消去のしかた

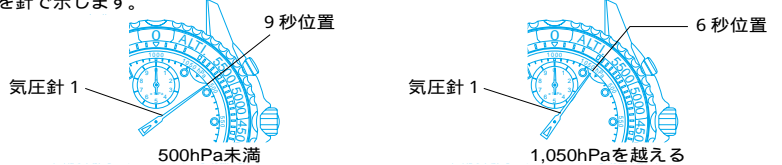
- 最低気圧値は必要に応じて消すことができます。
- これから記録する「最低気圧値」を知るためには、これまでの最低気圧を消す必要があります。
- ボタン⑧を押しながら、ボタン⑨を押します。確認音が「ピー」と鳴り、最低気圧値が消去されます。

消去後は現在の気圧が最低気圧値としてメモリーされます。

24

## 気圧計測に関する注意事項

- 飛行機内やビル内など圧力調整された場所およびトンネル内を走行中の列車内や自動車内、または温度変化が大きい場所では正しく気圧が計測できない場合があります。
- 気圧計測値が500～1050hPaの範囲を越えた場合、それぞれ範囲外の気圧を感知したことを針で示します。

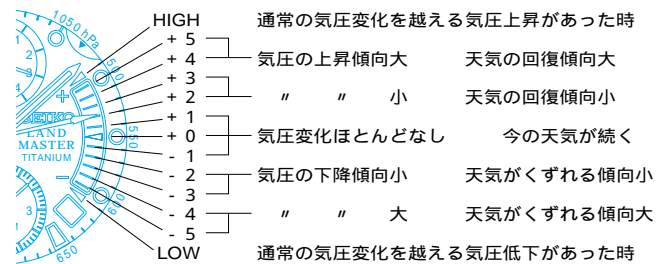


- 水中あるいは、水圧がかかった場合などは、気圧が正しく計測できません。1050hPaを越える表示や異常な数値を指す場合があります。水圧の影響がなくなり、次の気圧計測があると元に戻ります。
- 電池寿命が近づいて電池寿命切れ予告の「2秒連針」を始めると、気圧針1は「7秒」の位置(気圧計測停止マーク)に、また気圧針2は0hPa位置に移動します。この時には気圧計測を行いませんので早めに電池交換をしてください。(「電池についてのお願い」を参照)
- 小秒針が通常の毎秒連針状態で、気圧針が気圧計測停止マークを示した場合は、気圧計測になんらかの故障が考えられますので、お買い上げ店、またはセイコー取扱店へご相談ください。
- 10分間隔の気圧計測のタイミングは、時刻合わせをした時(リュウズ1を2段目の位置から1段目または0段目に押し込んだとき)からの10分ごとになります。

26

## 気圧傾向針の使いかた

- この針は気圧の変化傾向を示すもので、約3時間前と比較し変化分を針で表示します。
- 刻々と変わる気圧傾向を30分ごとに、上昇傾向5段階、下降傾向5段階で示します。
- この気圧傾向針の示す値により、一般的に上昇傾向では、天気は回復傾向であること、また下降傾向では、その逆になることが言われており、天気予測の一助となります。



ここで示す数値は3時間前との気圧差ですので、「+2」とは、3時間前に比べ約2hPa上昇したことになります。(ただし、移動による気圧差を除く値です)

28

## デモンストレーションについて(気圧関係の針とアラーム小時計)

- この時計には、針のデモンストレーション連針機能があります。
  - 気圧関係の針(気圧針1・気圧針2・気圧傾向針)とアラーム小時計(アラーム時分針)がそれぞれ連針します。
  - このデモンストレーションをしても、時刻や針の位置はずれません。
  - リュウズ1を1段目に引き出してください。
  - ボタン⑧を2～3秒押し続けてください。
  - デモンストレーション連針が始まります。
- 【連針順序】
- 気圧関係の3本の針が0位置に自走。
  - アラーム時分針が12時間分連針します。
  - 気圧針1が時計方向に1周、反時計方向に1周します。
  - 気圧針2と気圧傾向針は連動しているのと一緒に連針します。
  - 気圧傾向針の「±0」から「HIGH」へ連針し、その後「LOW」へ再び±0へ戻ります。
- 終わりましたら、リュウズ1を押し込んでください。

デモンストレーション中はアラームは鳴りません。途中で中止したい場合は、ボタン⑧⑨のいずれかを押すか、またはリュウズ1を押し込んでください。

30